

子どもの本

研究会



【私の一冊】

『あきらめない 働く女性に贈る愛と勇気のメッセージ』

村木 厚子 著 (日経ビジネス人文庫)

東原 福美



その人は凛としてチャームिंगな人だった。初対面の私に対して、謙虚で温かい笑顔を見せた。彼女の名は村木厚子さん。元厚生労働省事務次官で、2009年に郵便不正事件で冤罪を着せられた、その人だ。

この『あきらめない 働く女性に贈る愛と勇気のメッセージ』は、女性キャリア官僚として仕事も家庭もあきらめない生き方と、突然の逮捕、勾留を経て無罪を勝ち取るまでの彼女と家族、支援者の記録である。まず、一番共感したのが、彼女が拘留中に自分に言い聞かせていた言葉「食べて眠れば人生何とかなる」。この魔法の言葉に私自身何度励まされ、勇気をもたらしたことか。様々な困難にぶつかるたびに呟いた。「食欲、睡眠OK。私は大丈夫。まだやれる」と。そして、感銘を受けたのがその謙虚な人柄。少女時代に人見知りだった著者は父の教えから「ずっと働き続けられる」職業としてキャリア官僚を選んだ。しかし、超優秀な先輩職員と同じようにはできない、それでも「平々凡々な村木さんでも仕事も子育てもなんとかできた」と、後輩職員に思ってもらえる、そんな「普通のロールモデルになりたい」と考えていたこと。そんな彼女だからこそ、過酷な拘留生活を辛抱強く、一日一日を大事に前向きに乗り切れたのだと思う。さらには、勾留中に、生きづらさから犯罪に手を染めてしまった若い女性が多いことを知って、退官後はその支援に取り組んでおられる。

その村木さんに、熊本市男女共同参画課長だった2019年6月、市主催講演会の講師をお願いする機会を得た。演題は「人生100年時代、あなたはどうか生きますか〜新時代からの挑戦〜」。申込開始から2時間で定員になる盛況ぶりだった。講演の中で、初めて課長として単身赴任したが、子連れのため警戒されず周囲の温かい協力で激務を乗り切ったと語った。その経験からポストが上がるのは階段を一段上がるのと同じ、見える景色が変わる、オフアールや昇進の打診が来たら必ず受けて欲しいとエールを送った。また、少子高齢社会となった今、人生100年時代を生き抜くために学び直しやライフシフトが必要であると訴えた。さらに、「個人の仕事の射程距離」にも触れ、仕事は「広く浅く、時々深く」で、関連のない様々な業務であっても、その経験が後で繋がりに掛り算でスキルが向上すると話した。

人生にはいつ何時、誰に何が起こるかかわからない、突然の逮捕、勾留の経験から、「あきらめない心を持つことが大切、そうすれば必ず乗り越えられる」と、この本は教えてくれた。



(NPO法人熊本消費者協会副会長)

開催迫る！

熊本子どもの本の研究会

設立40周年記念公開講座

講師 さくまゆみこさん (翻訳家)

テーマ 「本は世界につながる窓」

日時 9月10日(日) 10時～12時

開場 9時30分

会場 くまもと県民交流館パレア

10階 会議室7

参加費 一般(中学生以上) 700円

会員500円 当日、受付でお支払いください。

参加希望者は氏名・ふりがな・電話番号・会員か非会員かを明記の上、左記宛にお申し込みください。

E-mail koukai@kodomonohon.org

募集は先着40名(定員になり次第締め切ります)。

★40周年記念公開講座スタッフを募集します

事前打合せや準備会への参加、当日の準備や後片付けをお手伝い願います。さくまさんと身近にお話していただける機会もあります。スタッフとしてのお話が可能です。参加可能な方は左記へご連絡ください。

(公開講座担当 安田・古上・木村・堀畑)

koukai@kodomonohon.org



参加者募集

オンライン講座「グリム童話の魅力」

日時 8月27日(日) 10時～12時

講師 竹内識晃 (絵本専門士)

本講座では、『グリム童話集』がもつ魅力を紹介いたします。昨年8月の講座では、グリム兄弟の業績とグリム童話の研究方法の違いによるさまざまな読み(解釈)があることをお話しました。今回から『グリム童話集』を翻訳で読み進めます。講座の各回でグリム童話1話を読む予定です。今回の講座では「灰かぶり」を取り上げます。「灰かぶり」の英語名は「シンデレラ」です。「灰かぶり」を読み解き、その類話と比較しながら、グリム童話の魅力をお話から探ります。あわせて、「灰かぶり」の絵本や映像作品についても紹介いたします。グリム童話の世界を様々な側面から考えたいと思います。参加者の皆様と意見交換する時間もつくりたいです。グリム童話を初めて読む方も大歓迎です。なお、講座では資料を配布します。

申し込みは左記メールにお願いします。

zoom@kodomonohon.org

締め切り 8月20日(日)



参加者募集「子どもと大人の読書会」

日時 9月3日(日) 10時～12時

場所 オンライン(ZOOM)

課題図書 小学生の部『ぴりっかすの神さま』(岡田淳著、偕成社)、中学生の部『星の王子さま』(サン＝テグジュペリ著、どなたの翻訳でも構いません)

申し込み zoom@kodomonohon.org

報告 2023年度 通常総会

日時 6月25日(日) 11時～11時25分

場所 熊本市現代美術館会議室

出席者数 44名(うち評決委任者36名)

正会員数53名 定款26条にある定足数「正会員の半数以上の出席」を充足し、本総会は成立。

森正人議長のもと、総会資料に従って以下の審議が進められ、全て承認された。

第1号議案 定款変更

役員改選総会の終結をもって現役員の任期が終了するようにする規定の追加。

第2号議案 22年度事業報告

第3号議案 22年度活動決算報告(含む監査報告)

第4号議案 23年度事業計画



第5号議案 23年度活動予算

第6号議案 役員改選 横田真理事、小川芳宏理事、

森正人理事、村上輝和理事、世良喜久子理事、増田素美

子理事、興津暁子監事が重任、横田恵美理事、園田舞監

事が新任。鈴木福江理事と梅元計吾監事の2名が退任

報告 2023年度 通常総会後理事会

日時 6月25日(日) 11時25分～11時半

場所 熊本市現代美術館会議室

出席者数 7名(理事総数7名)

横田真理事が議長となり以下のとおり審議し、

承認された。 議事録署名人には森正人理事と

横田恵美理事が選任された。

第1号議案 理事長の選任

横田真理事が理事長に選任された。

第2号議案 副理事長の選任

小川芳宏理事が副理事長に選任された。

講座報告 「さくまゆみこ著『あかね書房』

作品を読む(児童書)」

日時 5月17日(水) 10時～12時

会場 熊本市立図書館 集会室

参加者 8名

担当 安田晶子



課題本 『どうしてアフリカ? どうしてア

フリカ?』 さくまゆみこ著 あかね書房

さくまさんの作品は昔話、ファンタジー、伝

記やノンフィクションなど250点以上あり、

テーマも多様である。全体を通してみると、異

文化理解や社会問題の理解を促す内容、社会的、

身体的な弱者の視点からの作品でありながら希

望のみえる内容、といった共通点がみられる。

著作の『どうしてアフリカ? どうして図書館?』

を読むと、異文化であるアフリカへの探究心に

あふれて、体験することの大切さも伝わって

くる。こういった内容の本を読むことは、確かに

私たちの異文化への窓を開いてくれる。「人と

私たちの異文化には物語や本が必要」と主張し、

実際にアフリカの村に図書館をつくった経緯も

楽しく読める。その行動力がすごい。本年1月

末に出版されたジル・ルイス著『パップとい

う名の犬』(評論社)の野良犬物語は、原作が20

21年に発行されているので、翻訳の早さにも

驚かされる。代表作とも言える『クロニクル千

古の闇』シリーズの題名を英語と比べてみると、

日本語のセンスに感服する。9月に企画してい

る講演会に期待が高まる。

【参加者からのさくまゆみこ訳本紹介】

『カマキリと月』 マーグリート・ポーランド作

(福音館書店) 絶版になりそうだと聞き、即

刻手に入れた。作中のアイテムが興味深い。

『オオカミ族の少年』クロニクル千古の闇(1)

ミシエル・ペイヴァー作(評論社) 一気に読

んでしまうストーリー展開。躍動感あふれる文

章にも引きつけられる。

『彼の名はウォルター』エミリー・ロッダ作(あ

すなる書房) ミステリー作品で、スリル満点。

『わたしは、わたし』ジャクリン・ウッドソ

ン(すずき出版) (証人保護プログラム) を使い

別人として生きる人達の物語。アイデンティ

ティーについて考えさせられる。

『モーツアルトはおことわり』マイケル・モ

パーゴ作 マイケル・フォアマン絵(岩崎書店)

モーツアルト曲を演奏しない理由がナチス強制

収容所の悲劇にあった。

『ノウサギのムトラ』南部アフリカのむかし

ばなし』ビヴァリー・ナイドゥー作(岩波書店)

南部アフリカの昔話を初めて読んだ。トリック

スターのムトラが面白い。

『白いイルカの浜辺』ジル・ルイス作(評論社)

底引き網漁に執着するタギーが、海で暮らす



生き物全てをズタズタにしかねない己の行為を振り返り「真実はいつも目の前にあった：見ないようにしていたんだ」と言う。この表現には読者を動かす力がある。

【感想】

・問題がわかっていいるはずなのに意識してこなかったことを反省し、今こそさくまさんの本を読まなければならないと思う。子ども達にも手渡していきたい。

・差別・ヤングケアラーなど多岐にわたる社会問題を描いた数々の本を手にし、感情が揺さぶられながらも重い気分になった。翻訳するさくまさんは、読者以上に重いものを感じるのではないだろうか。

・さくまさんは全共闘世代である。この頃に培った考えが、今の活動に影響を与えているのではないか、という安田さんの報告に首肯する。
・翻訳はある文化圏の習俗や暮らしを伝える側面と読者にわかるように伝える側面がある。この二つを両立させるのは「不可能に近く」、その狭間で「たえずうろろうしながらどこかに出口を見つけないといけない運命にあるのが翻訳者」と、さくまさんは述べている。

講座報告

さくまゆみこさんの作品を読むー絵本

- ・日時 6月21日(水) 10時〜12時
- ・会場 熊本市立図書館集会所
- ・参加者 9人
- ・レポーター 木村一恵

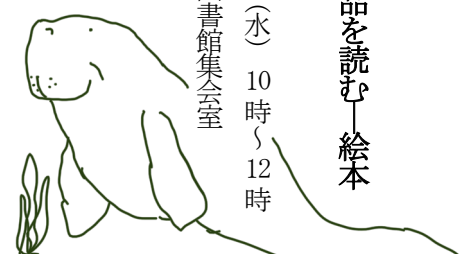
レポーターより

作品が多い。まずは、さくまさんのブログに挙げてあった151冊の絵本について、コメントを読み、出来る限りの絵本に目を通した。さくまさんは、本を見つけたときも、翻訳をされるるときも、ご自身の確固たる意志を持って作品に向き合われている。妥協はされない。原書の表現や言葉に疑問があれば徹底的に調べる。どの絵本にも、子どもたち、世の中の人たちに今こそ届けたいという強い思いがこもっている。

○『おじさんのブッシュタクシー』(クリスチャ

ン・エバンニヤ作、さくまゆみこ訳 アートン(以下、さくまゆみこ訳は省略)

アートンから出ているアフリカの絵本シリーズ。他5冊あり、『いちばんのなかよし』『アフリカの大きな木バオバブ』ほかはまほうつかい』



『ほーら、これでいい!』『おしゃれがしたいピントウ』出版社アートンは今はない。かつて、ISに捕まって殺されてしまったジャーナリストの後藤健二さんが、このシリーズをまた出したいとおっしゃっていたという。「子どもたちが多文化を理解することがとても大事だと思っただけいらつしやつたのだと思う」とさくまさん。私はアフリカの子どもが主人公の後藤さんのノンフィクションを読んでいたの、このつながりに気持ちが悪くなった。大人にとっても異文化理解は大切。その土地の生活や文化が熱気とともに伝わってくる。再販を願う。

○『ふしぎなボジャビのき』アフリカのむかしばなし(ダイアン・ホフマイアー再話、ピート・フロブラー絵、光村教育図書)

昔話の翻訳も多く手がけている。夜、子どもたちに昔話を語って聞かせ、そのなかで社会の決まりや価値観や歴史を伝えていくという文化が、アフリカにあるという。

☆『ふしぎなボジャビのき』読み聞かせ

さくまさんは、「アフリカの多くの地域は文字をもたず、歴史や叙事詩や物語は口伝えで語りつがれてきました。そういう社会では、きちんと記憶することが生死にかかわるくらい重要な

(報告 堀畑真紀子)



ったのかもしれない」という。楽しく笑いが起ころお話に大事なことが詰まっている。

○『ステイブン・ホーキングの物語』(キャスリーン・クル&ポール・ブルワー・文、ボリス・クリコフ絵、化学同人) ほか

伝記が人物の偉さや人並外れた頑張りなどだけ強調するのではなく、弱点やユーモアやお茶目な側面も描こうとするようになってきた。また、幼い頃に抱いた夢がどんなふう将来につながっていったかを表現するというコンセプトで作った絵本もある。

○『ゆき』(ユリ・シュルヴィッツ作、あすなろ書房)

個人的に好きな絵本。さくまさんのコメントには「子どもにアピールする楽しいところ、大人にアピールするスパイス入りのところが重層的に存在して、含蓄のある絵本」とある。絵本を開くたび、自分がこの絵本に出てくる大人になってはいないか問いかける。

○『ブルンディバール』(トニー・クシュナー再話、モーリス・センダック絵、徳間書店)

第2次大戦中、チェコ北部テレジンにあったナチスの強制収容所で、子どもたちが上演して



いたオペラをもとに描かれた絵本。子どもたちが力を合わせて悪者をやつつけるストーリー。ユダヤ系アメリカ人のセンダックが思いを込めて描いている。歴史を知る一冊。

〈参加者より〉



▼『チコときんいろのつばさ』(あすなろ書房) は、20年くらい前、原書を自分で訳して読んでいた。今回、さくまさんの訳があることを知り手に取った。日本語が美しくてすつきりとしている。今の子どもたちに伝えたい希望のある絵本▼『くらやみのなかのゆめ』(小学館)。夢を追いかけて諦めないことを子どもたちに伝えたい▼『みずをくむプリンセス』(さ・えら書房) を読んでいて胸がいっぱいになった▼読み聞かせの原点は、「この本を子どもたちに届けたい」という思いではないか▼作品を調べていて、『子どもを喰う世界』くぼたのぞみと共訳、晶文社に出合った▼昔話、環境、伝記、人権など、さまざまな本を訳されていて、すごいと思った▼『ありがとう、チュウ先生』わたしが絵かきになったわけ(岩崎書店)は学校の図書室に置きたい▼知識欲がむくむくと湧いてきた▼『ゆき』で思い出したのは、雪が降ってきて子どもたちが教室でざわざわとしたら、先生が「気が散る」

と言ったという話▼楽しい本を読みたいと思つて、『おいしいそうなバレエ』(徳間書店)、『ライオンをかくすには』(ブロンズ新社)、『スニッピーとスナッピー』(あすなろ書房)を読んだ▼「ロイス・レンスキの四季の絵本」4冊(あすなろ書房)と『かえるだんなのけっこんしき』(光村教育図書)など、子どもたちとほちぼち読んできた▼現状に対する反発心が若い頃から脈々とあるのではないか▼『風が吹くとき』(あすなろ書房)。原爆が落とされても国家を信用している老夫婦を批判しているが、自分はその夫婦を笑えない。

たくさん絵本が、窓を開けて世界を見ることの大切さを教えてくれた。

(報告 木村一恵)



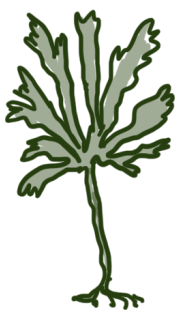
報告 「子どもと大人の読書会」

日時 5月28日(日) 10時~12時

場所 オンライン会合(ZOOM)

参加者 12人//小学4年生3人/中学2年生4人/大人5人

司会 興津暁子



●小学生の部

『十年屋 時の魔法はいかがでしょう?』

(廣嶋玲子作、静山社)



小学生A 主人公たちは自分の寿命1年を削って魔法使いに大事なものを預ける。その気持ちの強さに驚いた。私なら寿命1年は絶対払えない。いちばん好きな話は「悔やみの指輪」。友だち2人が盗んだ指輪とプレスレットをそれぞれ十年屋に預けていて、10年後に仲直りするところが素敵。



小B 「残された時計」が面白かった。おじいさんからのメッセージを聞いて、時計職人を目指すことにしたジンは、灰色の人生を送っていた最初のジンとは全く違うから。

小C 大好きな白うさぎを預けざるをえなかった「懐かしの白うさぎ」の女の子に同情した。私だったら耐えられない。



大人D 「残された時計」のおじいさんのメッセージに感動して涙が止まらなかった。

大E 寿命1年を払うのは勘弁だが、登場人物がそれぞれ重い決断をすることで物語に深みが出ている。

大F とても気に入リシリーズ全巻を読んだ。

時間が問題を解決するという考え方が一貫して



流れている。十年屋の「琥珀色の目」には数千年も生きていくという意味がある。

大G 若い2人のラブストーリーが美しい「約束の雪たるま」に惹かれた。「残された時計」で、おじいさんのメッセージを読んだジンは新たな人生を踏み出すシーンにも感動した。

大H 他の大人と同じように約束の雪たるまを残された時計、そしてエピソードがよかった。

大E 払った寿命は何かに使われているのか。

小A 魔法使いの寿命にしているのでは。

小B カラシと寿命を分け合っているのかも。

小C みんなを幸せにするために使っている。

大F 預かったものと同じ状態に保つために使う、とあとの巻に書かれていた。



●中学生の部 『ぼくらの七日間戦争』

(宗田理著、角川文庫／ポプラ社)



中学生I 今の中学生は工場に籠城したりはしないが、悪い大人に反抗するあの時代の中学生の行動力にあこがれた。

中J 安田講堂や全共闘とは何かと調べてみたら、深刻な社会問題だったと分かり、中学生の覚悟を感じた。巨大迷路をつくって先生たちを懲らしめるところが印象に残っている。

中K 中学生が学校の不自由さを理由に工場に

たてこもるといふ展開が興味深かった。僕だったら、反発したら口で言うかな。

中L 下水道を使って工場から公園に抜け出すのは、臭いけれどやってみたい。

大H 学校や先生に反発することはある?

中K したいことが時々できないとき。

中L 先生に急かされるとイライラする。

中I あまりない。ただ、体育大会のリーダー

格の友だちが、競技に勝てないことを理由に先生に注意され、反発していた。

中J 休み時間に友達がちよっかいを出してくるとイラつとすることもある。

大H 誘われたら籠城に参加する?

中I 分らない。親と喧嘩していたら行くかもしれないけれど、行ったとしても宇野のような暴言は親に吐かない。

中L I君と同じ。親に過激な暴言は吐かない。

中K 行かないかな。でも、本に出てくる協力者のようなことはするかもしれない。

中J うちの学校は先生が優しいので、行く理由がない。榎本のような教師がいれば別だが。

大D 出てくる大人が嫌なヤツが多くて、あんなの周りはこんな嫌な大人はいないよねと子どもに聞いてしまった。自分が子どもの頃は体罰



が普通にあった。今の先生は優しく、時代が変わったと感ずる。

大E 1985年の出版で、この本の親たちは全共闘世代。僕はそれよりは10歳位後の世代だが、大学には過激派が残っていて雰囲気は分かる。自分の中学時代は部活動一色。高校も校則が緩く反抗しようという気は起きなかった。高1の時、友人とバックパック旅行をしたことがあり、この本の中学生と似た高揚感を感じた。

大F 80年代は校内暴力の時代から管理教育に移ったころ。生徒を締め付けて授業を成り立たせようとした。それに反発して子ども達は立ち上がったと思う。知恵を絞って社会に立ち向かう子どもたちを応援したくなった。



大G 私も応援したい気持ちでいっぱいになった。印象に残ったのは瀬川さん。子ども達に「戦争にはどんなことがあっても行くな」という。今こそその願いが読者に伝わってほしいし、戦争を阻止するのが大人の務めだ。

大H 子どもの味方が社会的弱者である瀬川さんや女性の保健教師であることが印象的。戦争はダメというメッセージも強烈だった。この本のキーワードは「解放」。そのアプローチが立てこもりであり、Kくんたちにとっては言葉なの

だろう。中学時代は、親や先生の言うことを信じていたが、いま振り返ると管理されていた。子ども達に任せたら秩序は乱れるのか。制服はなぜあるのか。当たり前前を当たり前と思わないことも必要。

中I ぼくたちと大人で読み方、受け止め方が違うのに驚いた。

中L 全共闘という言葉も知らなかったけれど、あまり関わりたくないと思った。

中K 自分たちの世代と他の世代との考え方の違いを知ることができてよかった。

大E 小中学生は、純粋にいまやりたいことをやればいい。そこに阻害要因が生じたら、なぜできないのかと主張してほしい。

(報告 横田恵美)

※紙幅の都合で記録を大幅に圧縮しました。HPの「会員の広場」に完全版があります。

報告 研究会活動検討会(第2回)

日時 6月11日(日) 10時~11時15分

場所 オンライン会合

参加者 5人

4~5月の活動や40周年記念公開講座「ゲリム童話の魅力」、びわの木文庫開庫、各種助成



金への応募検討などを中心に話し合った。

ボランティア「びわの木」活動報告

5月18日(木)、県立図書館の赤ちゃんのおはなし会「よちよちあんよ」に倉岡さんと古上で行ってきました。

人数制限のあるなか、3組の親子(大人3名・乳児2名・幼児2名)の参加がありました。始まりの「ろうそくのうた」では、元気な男の子がリードしてくれて、場がほぐれ良い雰囲気ではじめることができました。おかあさんのひざの上で抱かれた赤ちゃんは、ペープサートや手袋人形、絵本に釘付けです。その集中力にびっくりしました。絵本の『ペンギんたいそう』では、いっしょに体を動かしました。子ども達のかわいい動きに私たちもにんまり。わらべうたでは、シフォンを使って遊びました。シフォンの肌触りも気に入ってくれ、ふれあいのひとときを楽しましました。

(報告 古上美智代)

今後の「おはなしボランティア」日程(予定)

・9月11日(月) 13時~13時30分

熊本大学教育学部附属支援学校(中学部)

・9月15日(金) 11時~11時20分

熊本市立図書館(1・2歳児)



7月、8月、9月の講座・会合のご案内

○びわの木文庫開庫

7月29日(土)／9月9日(土) 13時～17時

○講座・実演 お話の小道具製作

日時 8月6日(日)



10時～12時 製作

13時～15時 製作小道具を使って実演

会場 市民会館シアーズホーム夢ホール

第1会議室

○研究会活動検討会(オンライン)

日時 8月20日(日) 10時～12時

○講座「グリム童話の魅力」(オンライン)

日時 8月27日(日) 10時～12時

○子どもと大人の読書会(オンライン)

日時 9月3日(日) 10時～12時

○40周年記念公開講座

講師 さくまゆみこさん

日時 9月10日(日) 10時～12時

会場 熊本県民交流館パレア10階会議室7

申し込み等は2ページを「参照願います」。

○講座 田口祐子さんのおはなし会

日時 9月20日(水) 10時～12時

会場 熊本市立図書館集会所

★講座参加には事前申し込みが必要です。講座



名、参加者のお名前、電話番号を明記の上、メールでお申し込みください。お越しになる前に必ずホームページで場所等をご確認ください。

メール kouza@kodomonon.org



★オンライン会合への参加希望者は左記宛にご

連絡願います。 zoom@kodomonon.org

本はともだち!



最近Kindle Unlimited(月680円)を利用して、iPadでも本を読んでいます。気になっていた『天山の巫女ソニン』の第1巻を読んだ後、児童書でどんな本があるかなと検索して見つけたのが『賢者の書』(喜多川泰著)でした。喜多川氏の本はこれまで読んだことがなかったのですが、この本を読んではまってしまい、月極契約内で読める『株式会社タイムカプセル社』『手紙屋く僕の就職活動を変えた十通の手紙』を続け様に読んでしまいました。

『賢者の書』はサイドという若者が9名の賢者との対話を通して「賢者」になる方法(人生の生き方)を学んでいく話です。そこで彼が学んでいく「まずは行動する」、「今やれることに正面から取り組む」、「自分の時間を金のためでなく価値あると思うことに投資する」、「他

人を幸せにすることを目指す」などは、自分自身も公務員・会社員人生を通して心がけ、それにより多くの満足感を得ることができたと感じています。私自身が若い人たちに機会があれば伝えたいなど思っていることを、賢者達がサイドに理解できるようにわかりやすく説明してくれており、若い人たちに読んでもらえればと思います。同時に、私がこれまでは意識せず、実践できていなかった、「自尊心と多尊心を持つ」、「日々使う自分の言葉を大切にする」という教えなどもあり、私自身にとっても新しい良い気づきを与えてくれました。

喜多川氏の本は、物語の展開を楽しみながら、人生の生き方に関する教訓も得られる、一読で二度美味しい本です。びわの木文庫にも入れるようにいたしますので、是非ご一読下さい。

(横田 真)

■編集＝金子・上林・横田 《イラスト》安田

特定非営利活動法人

熊本市子どもの本の研究会 発行

〒861-8029

熊本市東区西原1丁目15の24

FAX 096(382)5090

